

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート



第8号
2011年4月11日

| 1

第一陣 任務終了 本当にお疲れさまでした!

3月31日から4月7日の間、宮古市、花巻市（以上岩手県）、仙台市（宮城）、福島市（福島）を拠点にし、それぞれの被災地でボランティア活動を展開してきた第一陣のみなさんは、4月8日の午前中に全員無事に帰着し、連合本部前で南雲事務局長らに出迎られました。連日の活動とバスの長旅で表情には疲れも見えましたが、その中でも無事活動を終えた安堵感と充実感が伺えました。

翌8日には、一関（岩手県奥州市）を拠点に、宮城県気仙沼市での活動を続けてきた皆さんが、前日の強い余震で滞在先の水道電気ガスが全てストップし、現地での作業継続が困難になったため、派遣期間半ばにして引き上げを余儀なくされました。一関チームのみなさんは9日午後連合本部に到着。古賀会長らが出迎えました。



到着した一関チームを出迎える古賀会長ら
(9日・連合本部前)

※ ※ ※ ※

その一関チームの一員として活動された西野ゆかりさん（基幹労連）から、活動を終えての手記が寄せられました。

泥だらけでめちゃくちゃになった家を何とか早く片付けようとして、作業に夢中になり、実は私たちは最も大事な被災者の気持ちを置き去りにしたのではなかったか…と途中で大いに反省しました。私たちにとってはヘドロまみれの服や写真で、たとえ『棄てていい』と言われても、被災者にとっては思い出の詰まった大切なものです。作業が遅れても、もっと丁寧に扱うべきだった。もっと被災者の気持ちに寄り添った連合(労働組合)ならでのボランティアをしなきゃいけないのではないかと、と数日たった時に班のメンバーで話しあいました。

本当にボランティアを必要としている人を手助けできる仕組みの必要性を感じました。中には自宅は高台にあり被災していないのに所有するアパートの泥だしを頼まれたり、しかも実はそこには人が住んでいなかったことが後で判明したり、自宅は何とか片付いたけど庭の漂流物処分を頼まれたり。避難所暮らしの高齢で足が不自由な一人暮らしの方の家の片付けをした時は、これこそ本当のボランティアニーズではないかと感じました。住民台帳も流され情報が無い中での立ち上げ時期だから仕方ないかもしれませんが…

ボランティアはまだまだ長丁場でこれからが本当のスタートです。私たち連合は本当に現地に頼られているので、切れ目無く、最後までやり続けなければならないと感じました。また私のように現地に行かせて頂く人だけでなく、本部で対策を練る人、職場で仕事をカバーしてくれる人、政策面で被災者を助ける人など、立場は違っても、労働組合全体で復興をめざしていることをあらためて噛み締め、報告完了します。

頑張る、ニッポン！ ご安全に＝ 一関チーム 西野ゆかりさん(基幹労連)

第二陣、岩手と福島で活動開始

第二陣のうち、4月8日に東京を出発した福島チームは、福島と、新たに開設した会津の2拠点に分かれて作業を開始。岩手チームは余震の影響で2日遅れの10日に東京を出発。11日から活動に入ります。

福島

●福島拠点（活動地域：相馬市、郡山市）

【4/9】相馬市内の小学校で、物資の移動、パーテーション作りを実施

【4/10】相馬市内の民宿での泥、家具の搬出、片づけ作業を実施。郡山市では、避難所からの避難者の移動・引越しの手伝い、別の避難所での炊き出し、焼鳥のサービス、翌日の炊き出しの仕込み作業（野菜カット）

●会津拠点（活動地域：会津若松市、いわき市）

【4/9】会津若松市内にある支援物資センター（旧高校の体育館）で、物資の運搬、仕分け、整理を行いました。いわき市での作業は、ボランティアセンターから降雨による危険性を考慮し作業の中止申し入れがあったため、被災地視察に切り替えました。

【4/10】会津若松市では、前日に続き支援物資の搬入、仕分け、整理、配布作業を実施。

会津若松市は、大熊町から約3,000人の被災者・避難者を9ヶ所の避難所で受け入れており、町の役場機能も移転してきています。

この日は晴れたこともあり、前日よりも物資を受け取りに来る被災者の方々の数も多く、1,000人以上にのぼりました。物資の整理作業では、所在を明らかにするためレイアウト表を作成し、それに基づいて整理を行いました。体育館であるため、作業は全て手作業。この日だけで1,000個を超える段ボールの運び出しを行ないました。

現地からは、「物資の整理ができれば、混乱なく納品でき、ニーズに応じて素早く物品の取り出しができるため、早急に整理していきたい、倉庫作業は肉体的には結構厳しいが、その分一体感が高まっている」との報告です。

いわき市では、地域の方々と共同で市内にある「道の駅」付近の土砂清掃を行い、午後には津波の被害を受けた家屋での家財分別を実施しました。

現地から

会津若松で活動される方へ

気候が暖かくなってきているため、屋内作業ではTシャツと作業着の動きやすい服装、また体育館での作業もあるため、スニーカーや上履きの持参が望ましいです。



避難所での炊き出し（郡山）

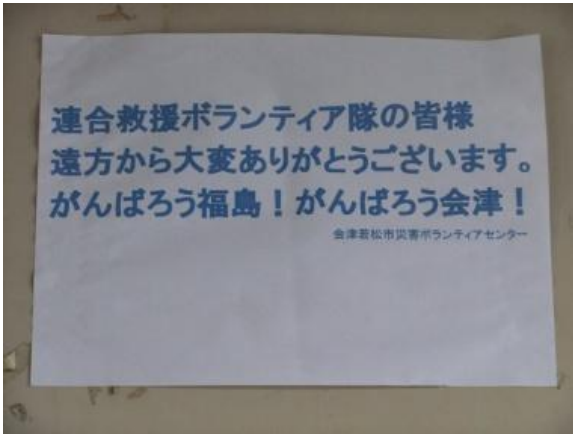


トラック一杯の物資を体育館に運び込む（会津若松）



物資の仕分け作業（会津若松）

※4/11 午後5時過ぎに福島県浜通りを震源とする強い地震がありました。連合ボランティアの皆さん全員の無事が確認されています。



■ボランティアセンターには、連合ボランティアセンターへの感謝と「がんばろう！」のメッセージが掲げられている（福島・会津若松）



■一般のボランティアと共同で作業（福島・会津若松）

現地の写真から



■ちょっと一息。おつかれさまです。（福島・会津若松）



■住宅地には依然として残る倒壊家屋（福島・いわき）



■一日の作業を終えて撮影。傾いた電柱とたわんだ電線が津波の爪痕を示している（福島・相馬）